

福山に咲く「ミステリーローズ」

由来の分からぬばら「ミステリーローズ」

現代のばらは、香りや花形、耐病性などを追求して品種改良されたものが多く、名前や育種の記録がはっきりしています。一方、ミステリーローズは名前や由来が不明で、長い年月を経て街の中で生き残ってきたばらです。

1950年代、バミューダ諸島で名前の分からぬ古いばらが多数発見され、そのうちの一つが、現代ばらに大きな変革をもたらした‘スレイターズ・クリムゾン・チャイナ’であることが分かりました。‘スレイターズ・クリムゾン・チャイナ’は、当時すでに失われた品種と考えられていきましたが、その再発見は大きな反響を呼び、1954年のチャルシー・フラワーショウで大々的に紹介されました。その後、1979年にバミューダに訪れたイギリスのピーター・ハーカネスが、その一群のばらを見て「ミステリーローズ」と名付けたことで、世界に知られるようになりました。

日本でも同様に、個人宅や古い施設の庭先で、ミステリーローズが発見されています。これらのばらは、長い年月をかけて日本の風土に適応してきたため、栽培に特別な手間を必要とせず、歴史的な建物や庭園とも調和します。

また、肥料や農薬がなくとも長い年月の試練に耐えてきたミステリーローズの持つ生命力は、環境に優しい庭づくりの素材として大きな可能性を秘めています。

市内で見つかった3種のミステリーローズ

福山市内ではこれまで3種のミステリーローズと思われるばらが発見されています。

廉塾バラ‘福山茶山薔薇’



2021年4月発見。

江戸時代後期の儒学者、菅茶山の旧宅で発見されたばら。
赤いチャイナ系の庚申ばらの一種で四季咲き。

‘福山太白’



2015年10月発見。

福山市駅家町の民家で栽培されていたばら。
白い大輪のティー系香りのばら。

‘福山雅’



2021年4月発見。

福山市三吉町の国道沿い街路樹枠で発見されたばら。

ミステリーローズで繋がる、広がる

地域で受け継がれるミステリーローズ

廉塾バラは、地域の新たな宝として、地域住民らが中心となり、挿し木で苗木を増やし、地域や各家庭で育てる取り組みを行っています。



緑町公園

2024年3月、緑町公園の植栽整備によりローズヒル周辺に「ばらの森」を整備。ミステリーローズゾーンが新たに完成しました。福山で発見された「廉塾バラ」をはじめ、「ミステリーローズ」や「ファウンドローズ」と呼ばれる、日本各地に植栽されている由来の分からぬばらを植栽しています。

駐日イタリア大使館

「Rose Expo FUKUYAMA 2025」の大天使・大使夫人のローズガーデン展示の協力に対する感謝と友好の意を込めて、2025年4月、駐日イタリア大使公邸へ3種のミステリーローズを植樹しました。



緑町公園などに植栽されているばらの一部は、世界バラ会議福山大会実行委員会「ばらのまちづくり部会」の皆さんによって育成されました。